

経営比較分析表（平成30年度決算）

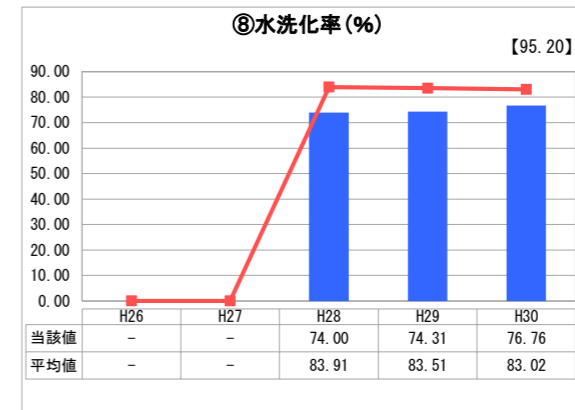
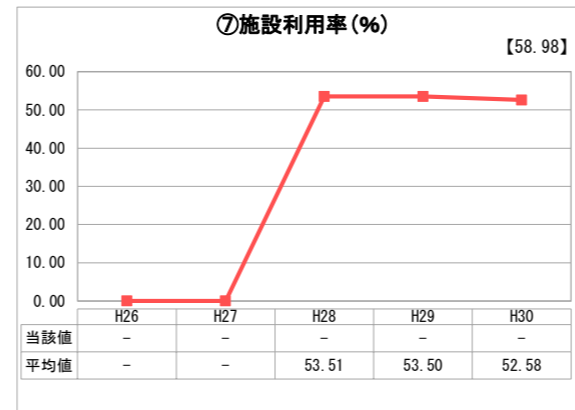
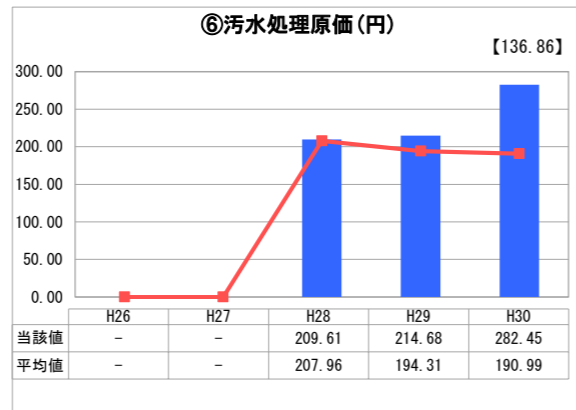
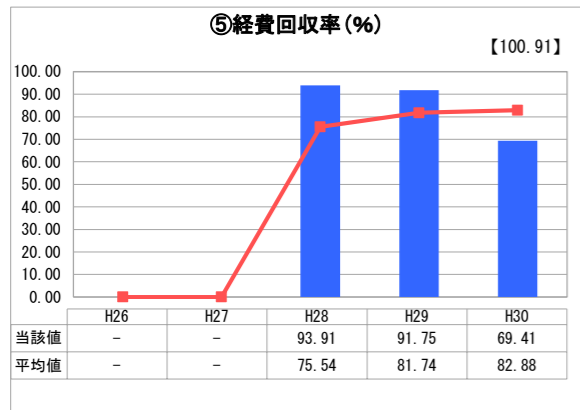
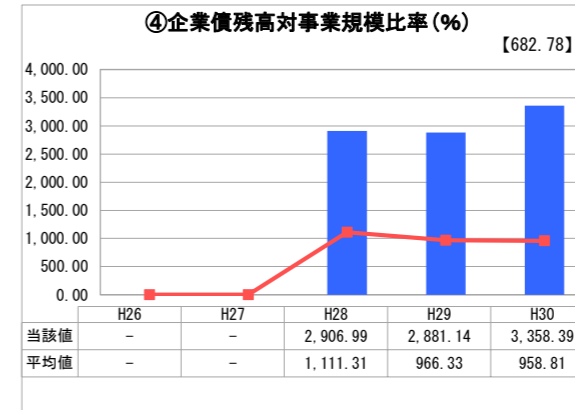
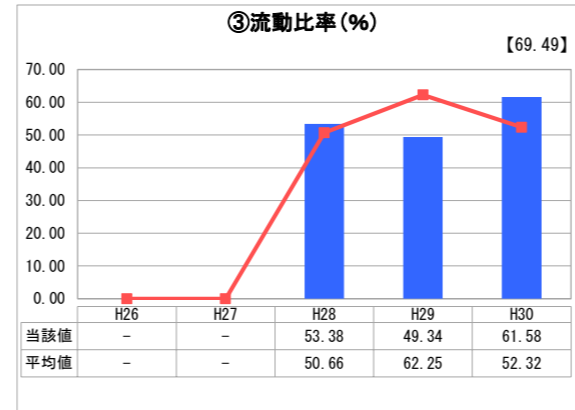
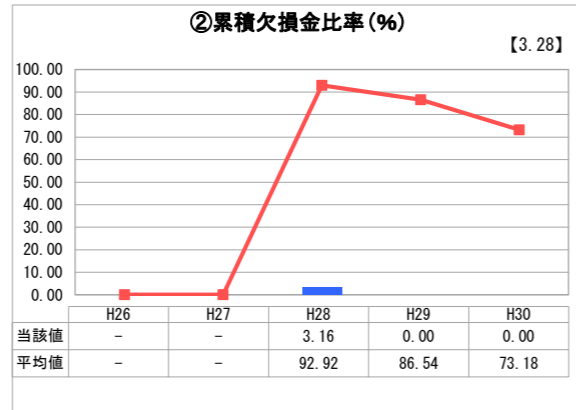
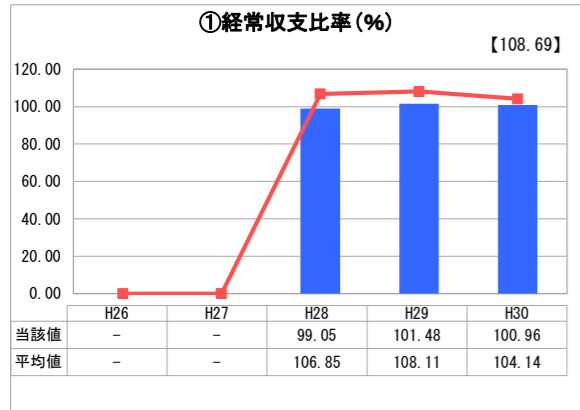
宮城県 美里町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	公共下水道	Cc2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	46.53	41.44	91.36	3,670

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
24,597	74.95	328.18
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
10,180	3.23	3,151.70

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【	平成30年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

③流動比率について
類似団体平均値を上回っているものの、100%を下回っている。これは、平成27年度まで法非適合会計であったため、現金の蓄積がなかったことが要因と考えられる。今後の現金残高の見込みを把握しつつ、資金不足に陥らないように努める。

④企業債残高対事業規模比率について
類似団体を上回っている。整備途中であるため、企業債残高が短期的に大きく減少することは見込めないが、普及活動により水洗化率を上げ、使用料収入を増やすことで改善を図る必要がある。

⑤経費回収率について
100%を下回っている。費用が過大とならないよう抑制に努めるとともに有収水量が伸びるよう普及活動に努める。

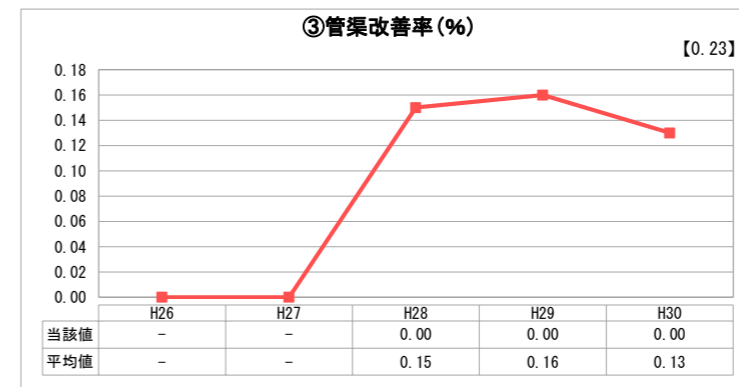
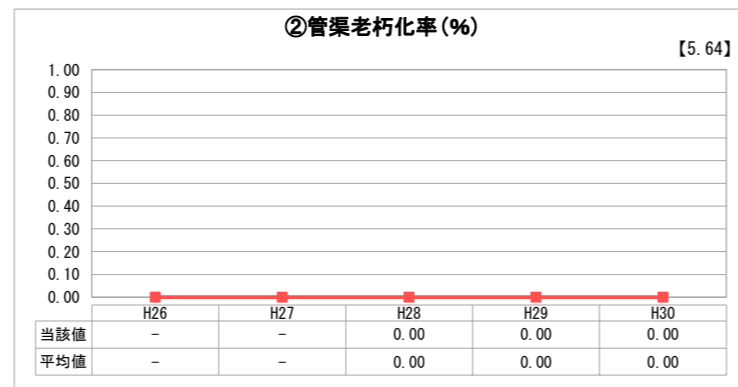
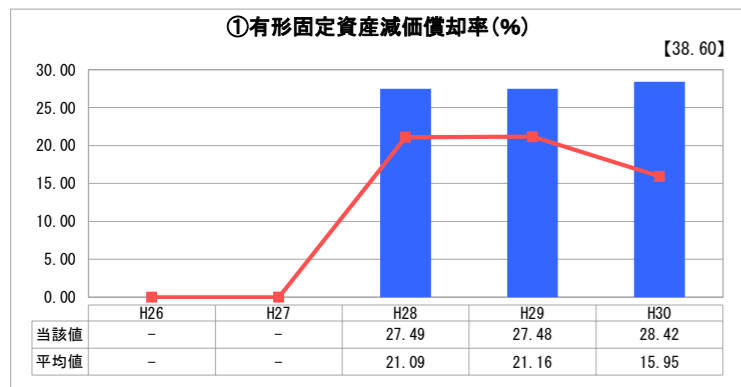
⑥汚水処理原価について
前年に比べ増となった。今後も整備が続くため、費用が過大とならないよう抑制に努めるとともに有収水量が伸びるよう普及活動に努める。

⑧水洗化率について
整備途中であるため、水洗化率が伸びにくい状況である。整備率の向上に併せ、新規供用開始区域及び既供用開始区域の未接続者に対し、さらなる普及活動に努める。

2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率について
マンホールポンプ等の機器が耐用年数を迎えようとしているため、計画的に順次更新を行わなければならない。

2. 老朽化の状況



全体総括

短期的な課題としては、水洗化率の向上が挙げられる。水洗化率を向上させることが、料金収入の向上に繋がり、経費回収率等の他の指標の改善も期待できる。
中長期的な課題としては、汚水管きよ整備の完了が挙げられる。
整備途上であり早期完成させ、より多くの住民に利用してもらえる環境を作らなければならない。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のための類似団体平均値及び全国平均を算出しています。